

1 戸板 進 議員（創政会） 【一問一答】

（1）学校給食の無償化について

- ・報道によると、国の支援策の基準額は、2023年の実態調査を踏まえた平均月額4,700円程度を基に設定するとあるが、その後、補助基準額などについて、国から制度設計の詳細は示されているのか。
- ・国の支援の基になる金額は4,700円とのことだが、この金額を超える分は市が負担することになるのか。また、坂井市の食材費の平均額はいくらなのか。
- ・国は小学校の給食無償化を2026年度に実施し、将来には中学校への拡大も視野に入れているようである。しかし、保護者の負担軽減を考えると、小学校の無償化のスタートと同時に市の独自施策として中学校についても無償化することが望ましいと考えるが、市長の所見を伺う。
- ・無償化に伴う財源については、国の責任で恒久的に無償化が必要だと考えるが、今後、国への要望活動など予定はあるのか。
- ・食育の充実と安全・安心な給食提供体制の維持・向上にさらに努めることが重要だと考えるが、今後の食育についての所見を伺う。

（2）中学校部活動地域移行について

- ・部活動は、先生にとって授業だけでなく生徒の特性を見出す大きな役割があると思う。地域移行によって、そのような機会が少なくなると思うが、どのように考えているのか。また、地域クラブでの生徒の様子等情報共有はどのようにしていくのか。
- ・地域クラブの大会出場経費や休日の練習試合等の経費負担はどのようになっているのか。また、生徒の送迎など保護者の負担が増加しているのではないのか。
- ・いくつかの学校の生徒が一つの地域クラブとして活動している場合、事故やトラブルが起きた場合の対処方法は明確になっているのか。また、各学校との連携はどのように行われているのか。
- ・中体連の大会には、一部の民間クラブの生徒も出場が認められていると聞いているが、民間クラブに所属しない部活動の生徒とのすみ分けはどのようになっているのか。
- ・平日の指導者確保は困難と思われるが、その場合、部活動の処遇はどのようになるのか。

2 辻 人志 議員（政新さかい） 【一問一答】

（1）三国祭の継承について

- ・伝統ある三国祭の継承が困難になっている現状を市はどのように認識しているか。
- ・三国祭の保存・継承に取り組む保存会や山車当番区への継続的な支援策を問う。
- ・観光資源でもある三国祭の祭りのブランド力を向上させ、地域外からの参加者や観光客を増やす取組について伺う。
- ・子どもたちへの伝統継承のために、学校教育や地域の学習機会を活用した取組をどのように行っているか。

- ・国の無形民俗文化財指定に向けた調査について、現況と今後のスケジュールを問う。
- ・ほかにも廃絶や存続危機になっている市内の祭りや伝統行事がないかどうか、状況把握をする必要があると考えるが見解は。

(2) 三国中央公園の利活用について

- ・三国中央公園の整備計画について、現状はどうなっているのか。
- ・より多くの市民に幅広く活用していただく公園に整備すべきと考えるが、市の考え方、今後の方向性を問う。

3 伊藤 宏実 議員（政友会） 【一問一答】

(1) クマの被害とその対策について問う

- ・坂井市におけるクマの認知情報（件数）、被害の有無などについてお知らせ願いたい。あわせて、クマ以外の有害鳥獣、特にイノシシやシカ、サルなどについても認知情報（件数）、被害の状況などについてお知らせ願いたい。
- ・現時点における市民への影響について報告願いたい。特に学校などでの登下校や各種行事、市の屋外でのイベント等、その他の影響など含め報告願いたい。
- ・市としての対策をどのように行っているか。猟友会の状況や連携、また最近法改正により認められた駆除、つまり「緊急銃猟」について、どのように考えているのか問う。
- ・子供の徒歩や自転車による通学時の危険性は大きいと思う。スクールバスの臨時運行、保護者による送迎の奨励など、子供たちを守るための施策が必要と考えるが市の見解を問う。

4 岡部 恭典 議員（創政会） 【一問一答】

(1) 地域の交通安全対策について

- ・県道春江川西線と市道小森石塚線との交差点における交通事故の件数や発生状況について、市としてどのように把握しているのか伺う。また、地域住民からの不安の声が上がっていることについて、市はどのように受け止めているのか併せて伺う。
- ・点滅信号機撤去の経緯と、その後の安全対策についてどのような検証を行ってきたのか伺う。今後、交通安全の観点から、信号機の再設置の考えはあるのか伺う。
- ・現地では道路標示の摩耗や標識の視認性の低下が見受けられる。そのことが、一時停止違反等による事故の主な原因になっていると思われる。道路標示や標識の整備状況について、道路管理上における現状の課題と具体的な改善の見通しはあるのか伺う。
- ・県道との交差点であることから、県との連携による安全対策はどのように図られているのか伺う。あわせて、県との協議状況と今後の対応方針について具体的に伺う。
- ・当該交差点の近くには園児数の多い幼保園や農産物直売所があり、交通量も非常に多い道路である。ゾーン30の設定や減速帯の導入、交通安全ミラーの設置など、道路管理者による物理的な対策の導入の可能性を検討すべきと考えるが見解を伺う。

5 鍋嶋 邦広 議員（創政会） 【一問一答】

（1）市役所内でのハラスメントに関するリスクマネジメントについて

- ・ 予防（ハラスメントを未然に防ぐ）のためのリスクマネジメントはどのように行っているか、本市の見解を伺う。
- ・ 早期発見（ハラスメントの兆候を早期に察知する）の取組はどのように行っているか、本市の所見を伺う。
- ・ 適切な事後対応（ハラスメント発生後の対応）の体制はどのようにになっているか、本市の所見を伺う。
- ・ 再発防止（同じ事態の繰り返しを防ぐ）の取組はどのようにになっているか、本市の所見を伺う。
- ・ 特別職と一般職では、ハラスメントが発生した場合の対応や処分等について違いはあるのか。ある場合はどのように違うか説明を求める。
- ・ 本市は、職員からの通報事案に対する外部窓口は設置されているか、本市の所見を伺う。

（2）北陸新幹線県内開業2年目の本市の観光動向と、これからの観光政策について

- ・ 令和7年度上半期（4月～9月）の市内主要観光地の観光客入込数・観光消費額等の実績は、前年同期と比較してどのようにになっているか、実績と分析結果について、本市の見解を伺う。
- ・ 第二次坂井市観光ビジョン戦略基本計画の策定状況は現在どのようにになっているか、その進捗状況を伺う。
- ・ 第二次坂井市観光ビジョン戦略基本計画において、美食都市アワード受賞を受けての美食都市としての本格的・積極的な取組が必要と考えるが、本市の所見を伺う。
- ・ あわら市や県、他市町との観光連携において、観光案内所のネットワーク連携強化が重要と考えるが、本市の現状とこれからの方向性について本市の所見を伺う。
- ・ 坂井市の観光情報・パンフレット類の配布状況全般について、及びインバウンド向け情報発信について詳細な報告を求める。

6 後藤 寿和 議員（志政会） 【一問一答】

（1）市役所1階アトリウムなどの利活用について

- ・ 1階アトリウム空間を市民にも開放して活用してもらう考えはあるのか。
- ・ 市の計画・予算・政策の進捗を大型ビジョンなどで常時発信する「行政の見える化エリア」を設置してはどうか。
- ・ 令和4年6月に「婚姻届提出時のフォトスポット設置」を提案した際、「プロジェクトチームで検討する」との答弁であった。その後の検討結果・進捗はどうなっているのか。
- ・ 三国支所の前に設置してあるストリートピアノを坂井市役所にも設置してはどうか。
- ・ 展示以外でもお昼の時間を利用してミニコンサートやイベントなどを開催し、憩いの場として活用してはどうか。
- ・ 要望も多い食堂・カフェ機能について、市は必要性をどう認識しているか。また、設置についてはどのように考えているのか。

7 川畑 孝治 議員（政友会） 【一問一答】

（１）福井アリーナへの関わり方は

- ・福井アリーナに対する、坂井市の関わりはどのように考えているのか。
- ・福井丸岡R U C Kの試合会場として使用できるよう市として支援できないか。

（２）カスタマーハラスメント防止条例を作るべき

- ・カスハラに対する取組は。
- ・カスハラ防止条例を策定すべき。

（３）中学校体育館空調設備設置工事補助を文科省・県の補助を受けられないか

- ・中学校屋内運動場空調設備設置工事に対する補助を国・県に対して要望すべき。
- ・今後、小学校体育館のエアコン整備はどのように考えているのか。

8 上坂 健司 議員（志政会） 【一括】

（１）行政の組織改編等について

①観光・文化について

- ・観光及び文化の振興並びに個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現を図り、強固に連携させ、より相乗効果を発揮するため、組織改編による観光文化戦略強化の見解はどうか。
- ・本市は２０２５年の美食都市アワードを受賞し、地元食材や食文化が高く評価された。市民への食文化理解や誇りの醸成、飲食店のブランド化や地域全体の美食イメージ向上に向け、現状の取組の成果や課題、今後の具体策はどうか。

②こどもまんなかについて

- ・こども家庭庁が掲げる「こどもまんなか」政策の理念をどのように捉え、本市の子育て支援政策に反映させる方針を持っているのか。
- ・「こどもまんなか社会」の実現のために、子どもや子育て世帯を中心に捉えた施策を総合的に推進する必要がある。関係部局間で子ども施策を横断的に調整する司令塔機能をどのように構築していくのか。また、「こども政策課」の設置や教育部局への移行など組織改編についての見解はどうか。

9 古屋 信二 議員（志政会） 【一問一答】

（１）人・農地施策について

- ・本市として、耕作不適地の定義づけ、評価指標の策定、デジタル地図化などを行い、支援対象の明確化と実態把握を進める考えはあるか。
- ・本市でも、協力隊を「鳥獣対策専門」として受け入れ、捕獲支援・柵設計・センサーモニタリング等の専門的業務を担わせる仕組みを検討できないか。
- ・農地周辺の防護柵の一体整備や集落単位の被害対策計画など、市が主導する「面的鳥獣害対策」の強化に向けた今後の方針を伺う。
- ・本市でも、協力隊を「農地保全」や「担い手育成」に特化させたテーマ型募集を行い、耕作放棄地再生や農業法人・集落営農との連携を強化する考えはあるか。
- ・本市でも、農村RMOの立ち上げ支援や、既存コミュニティ組織の強化による「農

地管理の地域外部化」の仕組みを構築する考えはないか。特に、耕作放棄地予備軍の草刈り・水路管理など、高齢者だけでは担えない作業について、市が包括的に支援する制度創設を検討できないか。

- ・農地中間管理機構で扱われにくい小区画・条件不利地を守るため、市が受皿組織の立ち上げ支援や補助制度を整備する考えはないか。

10 山田 秀樹 議員（創政会） 【一問一答】

(1) 市内の「中小企業」への支援

- ・市内の中小企業が直面している課題を把握するため、市はどのような実態調査を行っているのか。また、その調査結果に対してどのように政策に反映しているのか伺う。
- ・市が実施している補助金や相談支援、融資制度について、その利用状況及び効果検証はどのように行っているのか。また、利用率向上に向けた改善策があればお聞かせ願いたい。
- ・人材不足は市内企業に共通する深刻な課題である。市として、企業の魅力発信、人材育成支援、若者の地元定着に向けた取組をどのように進めているのか。また、労働力を望む企業と人材との市独自のマッチングやコーディネートする仕組みについて伺う。
- ・技術力・雇用環境・地域貢献などが評価される「優良企業」の育成は重要であるが、市はどのように取り組むのか。また、市として「優良企業認定制度」の創設を検討してはどうか。見解を伺う。
- ・技術革新が求められる中、大学や研究機関との連携は不可欠である。本市として産学官連携による新事業創出支援をどのように推進していくのか伺う。
- ・公共調達において、「市内企業が取り組みやすくなる制度」は導入されているのか。

11 廣瀬 陽子 議員（創政会） 【一問一答】

(1) 若年層の相談支援について

- ・若年層の孤立を課題として認識しているのか、また現状把握の方法は。
- ・生活面に困難を抱える若年層の相談状況は。
- ・若年層への相談窓口の周知はどのように行われているか。
- ・連携団体は。今後どのような団体と連携を進めるのか。
- ・孤立や孤独を感じている若年層の居場所づくりの必要性をどう考えているのか。

12 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団） 【一括】

(1) 気候危機と「食品ロス」 どうしたら減らせる・・・「生ごみ処理容器（キエーロ）」の購入助成制度を求める

- ・生ごみ減量・資源循環・環境教育の観点から「生ごみ処理容器（キエーロ方式）助成制度」を求める。

(2) バリアフリーのまちづくりに向けて～車いすで入れる店舗・通れる歩道の整備を～

- ・車いすで入りづらい店舗の聞き取り・実態調査をすること。

- ・歩道の現地調査、危険箇所の整理をすること。
 - ・バリアフリー改修相談や支援制度の周知のため、統一的な窓口体制が必要。
 - ・車いすで利用できる店舗の情報発信をすること。（マップ化・一覧化など）
- (3) 国の施策待ちでなく、学校給食費の無償化に乗り出すべき
- ・国の施策待ちではなく、坂井市も小中学校の学校給食費の無償化に乗り出すべき。
- 池田市長の英断を求める。

13 前田 嘉彦 議員（創政会） 【一括】

(1) 「便利アプリ」の活用について

①坂井市公式LINEや自治会サポの活用について

- ・坂井市公式LINEの登録及び利用状況はどのように確認し、どのように分析しているのか。
- ・自治会サポなどの利用促進を図るには、ある程度の促進期間を設けて各自治会に出向いて説明すべきと考えるがどのように考えているのか。
- ・利用層の把握と情報格差（デジタルデバйд）の課題対応はどのように考えているのか。高齢者対策としては文字の大きさ変更を可能にし、コミュニティセンターにてそれぞれの利用シーンに合わせた使い方教室なども有効と考えられる。また、多言語対応も考えていく必要もあるのではないかと。
- ・配信情報が多すぎると通知ブロックされる可能性もあり、通知の頻度と質への対応がより必要と思われるがどのように考えているのか。
- ・相談窓口を充実させることも重要であり、AIチャットボットを導入し、よくある質問に対応学習させ、24時間365日市民からの問合せに自動で回答できるようにすることで、市民の不安を解消し職員負担の軽減を図ってはどうか。
- ・市民との双方向性の強化を図り、LINEの利用登録者数、ブロック率、最もよく使われる機能などを定期的に公表し、市民の意見を募りながら改善していくPDCAサイクルも必要と思われるがどのように考えているのか。

②「ごみサポ」の利便性向上について

- ・登録及び利用の現状と普及促進に対してどのように考えているのか。
- ・ごみ処理の法律が変わったときや、ごみ検索でも見当たらない分別区分など分別に迷うごみについて、市民が写真を撮影して市に問合せができる機能を導入し、市民の疑問を解消すると同時に、市民が迷いやすい品目のデータ収集を行い、よくある質問の改善に役立ててはどうか。
- ・AI検索を活用し、ごみ分別区分の問合せに対してなど職員負担の軽減を図ってはどうか。

③魅力的な観光アプリの構築について

- ・「さかい旅ナビ」や「うららの極味膳」などの情報サイトは確認できるが、「便利アプリ」としてはまだ使いやすいとは言えない状況と思われる。全ての観光情報、施設情報、交通情報、飲食店・土産物店などを一つに集約した多言語統合型「坂井市観光アプリ」の構築を考えてはどうか。
- ・三国港突堤とサンセットビーチ、東尋坊から雄島までの海岸線観光に特化し、AR

と音声ガイドなどを活用した観光アプリ「絶景サポ」を作ってはどうか。

- ・丸岡城や市内全域の歴史文化財を対象としたARナビ「歴史文化サポ」を作ってはどうか。歴史上の人物をアニメーションで表示し、その場所の物語を語らせるような方法も考えられる。
- ・「美食都市アワード2025」にふさわしく、地域内消費と食の魅力向上を目的とした市民も使いやすい、坂井市内の酒蔵、土産物店、直売所、グルメ店などを巡るデジタル周遊パスポートなどを考えてはどうか。

14 三宅 小百合 議員（チャレンジさかい） 【一問一答】

(1) 道路排水の維持管理と市民協働による安全確保について

- ・道路排水の点検体制について、点検計画の有無、実施頻度、実施率はどのようなになっているか。
- ・側溝詰まり・破損の通報対応について、市民からの通報に対する平均対応日数はどの程度か。
- ・市内の側溝・排水路の現状について、総延長及び老朽化率はどのように把握しているか。
- ・危険箇所の優先対応について、「危険箇所リスト」や優先度区分の基準はあるか。
- ・市民協働の体制について、町内会や地元団体との協働体制はできているか。清掃作業への補助金、道具提供、ごみ処理費補助の状況はどうか。
- ・落ち葉の多いエリアへの重点対応について、季節的・地理的に落ち葉が多い地域への重点的な対応体制はあるか。
- ・通報手段の利便性向上について、LINEやアプリを活用した写真添付による通報窓口の展望はどうか。
- ・迅速な補修対応体制について、小規模な補修を迅速に行う“即応チーム”はあるか。
- ・冬季の排水不良による道路損傷の予防について、雪解け水の排水不良による凍結や道路損傷への対策は講じられているか。

15 永井 純一 議員（公明党） 【一括】

(1) 坂井市の物価高騰対策について

- ・坂井市における物価高の影響をどのように捉えているか。
- ・低所得者、高齢者や子育て世帯への支援を厚くするとともに、中間所得者、中小企業、福祉関係など幅広く支援すべきと考える。市の考える具体策があれば伺う。

(2) 5歳児健診について

- ・坂井市の乳幼児健診について伺う。
- ・5歳児健診は重要と考えるが、市の考えを伺う。

16 佐藤 岳之 議員（創政会） 【一問一答】

(1) 本市のマイナンバーカードの取組について

- ・本市のマイナンバーカードの申請者数と保有状況を伺う。
- ・今後予想される再交付申請と電子証明書の更新手続きがピークとなる時期に、それ

ぞれの手続きについて、市としてどのように対応していくのか伺う。

- ・マイナンバーカードの市独自の活用について検討しているのか伺う。

17 松本 朗 議員（日本共産党議員団） 【一問一答】

（1）物価高騰対策は今直ちに必要

- ・市内の全ての世帯、事業所に軽減効果があるのは水道料金の支援である。「基本料金の半年免除」など、すぐに効果がある支援策を求める。
- ・学校給食、教材費などの援助も、子育て世帯にとって有効な措置ではないか。

（2）参政党が提出した「スパイ防止法案」の危険と懸念、市長の見解

- ・「日本はスパイ天国」と言えるのか。
- ・情報機関を強化することは国民監視につながりはしないか。
- ・神谷代表の公務員を指して「極端な思想の人たちは辞めてもらわないといけない。これを洗い出すのがスパイ防止法だ。」との発言は、多くの情報を保有する公務員を委縮させる発言だと考えるがいかがか。
- ・市長は「スパイ防止法案」に対する懸念はあるか。

（3）住宅確保要配慮者への住宅セーフティーネットの強化を求める

- ・住宅対策に係る利害関係者などによる「住宅確保要配慮者居住支援協議会」の設置を求める。
- ・空き家、老朽マンション等を活用した、要配慮者に対する低廉な家賃での住宅の供給策（住宅セーフティーネット）策定を求める。

（4）水道2部料金制導入についてと地下水調査を求める

- ・県が示した2部料金制により、坂井市の負担は現行より軽減されるのか。
- ・令和8年度の購入費はいくらか。
- ・従量部分がどの程度減少すれば2部料金制導入のメリットとなるのか。
- ・地下水量の調査を実施したことはあるか。
- ・陸砂利採取は今も続けているのか。建設業者と協定を結び、禁止措置をとるべきではないか。
- ・近年の新築では土がほとんどコンクリートで覆われている住宅が多い。これでは雨水は地下浸透しないため、地下水の涵養にならない。宅地内で地下浸透するための事業を策定すべきではないか。

18 林 豊夏 議員（創政会） 【一問一答】

（1）寄附市民参画制度の現状とこれから

- ・寄附市民参画制度は「市民参加型社会」を目的に創設された制度であるが、現在の提案件数や内容の傾向を見らる中で、市民が参加できるという制度の原点がどの程度実現できていると市は認識しているのか。
- ・市民による小規模・大規模を問わない提案は、継続的に数多く生まれる状態が本来望ましいと考えるが、現状において市民提案が増えにくい要因や、課題となっている点を市はどのように分析しているのか。
- ・寄附市民参画制度では、事業採択された後、実施段階で進捗が停滞するケースも見

受けられる。こうした状況について、市はどのような課題認識を持ち、その要因をどのように捉えているのか。

- ・ 今後、この制度を「より多くの市民提案が生まれ、それが着実に事業として実現する制度」へと進化させるために、市としてどのような支援体制の強化や制度運用の見直しを検討しているのか。